



日本骨髄バンクの現状（平成 22 年 6 月末現在）

	5 月	6 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,059	2,766	363,175	467,940
患者登録者数	195	234	2,681	30,541
骨髄移植例数	85	119	-	11,882

20 歳未満のドナー登録者数

6 月 329 人

合計 12,865 人（17 年 3 月～）

51 歳以上のドナー登録者数

6 月新規 86 人

延長 93 人

合計 18,926 人（17 年 9 月～）

6 月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム / 924 人、献血併行型集団登録会 / 1,724 人、集団登録会 / 31 人、その他 / 87 人

骨髄バンクを介して 2 回提供された方（累計数）606 人 DLI（ドナーリンパ球輸注）療法の実施件数（累計数）381 件

国際協力の現状（2010 年 4 月～6 月）

注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

< 海外ドナー 国内患者 > 移植数 2 件：台湾 2 件

累計移植数：163 件

< 国内ドナー 海外患者 > 提供数 3 件：KMDP1 件、NMDP1 件、KAT 1 件

累計提供数：199 件

1 第 39 回通常理事会・評議員会の開催

6 月 30 日（水）、第 39 回通常理事会・評議員会が開催されました。（1）平成 21 年度事業報告・決算報告・患者負担金等支援基金審査結果等について審議の結果、原案どおり可決承認されました。

21 年度は、移植成績向上のため、ドナー登録時 H L A 検査とリタイピング検査に C 座検査を導入し、患者登録時 H L A 検査でも C 座検査を必須としました。ドナーコーディネートについては、体制強化を目的として、コーディネーター制度の一本化と 22 年度からのコーディネーションスタッフ制度の導入の決定、コーディネーターの養成研修の実施、コーディネーターの処遇改善等を行いました。また、非血縁者間の末梢血幹細胞移植（P B S C T）の導入へ向け P B S C T 委員会の開催等の準備を進めました。更に、財政運営では、厳しい経済環境の中、無駄な支出を排除して効率的な予算執行に努めたところです。

（2）次に、P B S C T の制度内容と今後のスケジュールについて審議が行われ、事務局の方針が承認されました。

以上のほか、通常理事会では、佐藤義雄氏（社団法人生命保険協会 前会長）の退任に伴って渡邊光一郎氏（社団法人生命保険協会 新会長）が、池田康夫氏（早稲田大学理工学術院 先進理工学部生命医科学科 教授）の退任に伴って日野雅之氏（大阪市立大学医学部附属病院 血液内科・造血細胞移植科 教授）が、それぞれ評議員に選任されました。また、評議員会では、唐澤祥人氏（日本医師会 前会長）の異動に伴って原中勝征氏（日本医師会 新会長）が理事に選任されました。

事業報告、決算報告、補正予算、患者負担金等の詳細につきましては、財団ホームページをご参照下さい。
http://www.jmdp.or.jp/about_us/overview/corporation.html

2 骨髄液の凍結に関する今後の対応方針について（進捗報告）

平素より骨髄バンク事業にご理解ご協力を賜り誠に有難うございます。

さて、標記につきまして、マンスリーJMDP3月号で、骨髄液の凍結に関して今後の対応方針をご報告いたしました(*1)。しかしながら、当財団における審議の内容を正確にお伝えできておりませんでしたので、改めて凍結に関する検討の進捗状況をご報告申し上げます。

*1：財団 HP > 骨髄移植推進財団について > パブリシティ > Monthly JMDP

(1) 3月6日に開催したドナー安全、医療委員会の合同委員会の主な決定事項として下記2点が確認されました。

昨年、凍結申請があった事例（前処置開始3日前の髄液検査で軽度の異常を認め、髄液検査にて髄膜浸潤と判断した。髄液注射と全脳全脊髄照射施行後に移植する計画を立てたが、ドナーの採取の再日程調整がつかなかったため予定どおり採取し、凍結した骨髄を後日移植した）に対し、凍結を認めるべきではなかった（なお、本事例の凍結は危機管理担当の委員の判断のもとで行われたが、凍結を認めるべきか否かの判断については当事者の意見を聞く必要もあり、事例処理を担当した医師も入れて検討をすべきであるという意見があった）。

今後も原則、凍結は認めない。

(2) その後の常任理事会において、上記のドナー安全、医療委員会の合同委員会の決定事項について審議したが、常任理事会においては上記 に対して合意が得られませんでした。したがって、当財団組織としての決定には及ばなかったため、マンスリーJMDP3月号で内容を掲載いたしませんでした（ については合意が得られました）。

(3) この対応について凍結を拡大していく方向で話し合われたような誤解を与えたとする意見があったため、5月29日に、ドナー安全委員会、医療委員会、倫理委員会ならびに理事長と危機管理担当の常任理事も参加し、再び合同会議を開催し、以下が確認されました。

今後も凍結基準策定のため継続して審議していくが、最近の例での凍結の是非については関係者の間で意見が分かれていることから、その審議に決着がつくまでの間は、これまで凍結が認められた例を議論の前提とはせず、現行の方針を維持することとする。

(4) どのような場合に凍結を認めるかに関しては、現時点では結論が出ておりませんが、今後、医療委員会、ドナー安全委員会、倫理委員会、常任理事会において、慎重に検討を重ねていく予定です。

3 第9回「P B S C Tに関する委員会」の開催について

6月20日に第9回目の「P B S C Tに関する委員会」が開催されました。第9回本委員会では、非血縁者間P B S C Tが導入された際に必要となる詳細な基準や運用マニュアル等について審議が行われました。

具体的には、ドナー適格性判定基準、P B S C 採取マニュアル、造血幹細胞提供者となられる方へのご説明書、ドナー手帳、P B S C 採取・移植認定施設に関するサイトビジット時のチェックリスト等です。これらは、当日の議論を踏まえてさらに委員の方々のご意見を伺い、最終的なとりまとめをしているところです。審議の詳細については、財団ホームページに随時アップされる議事録をご参照ください。

4 「骨髄バンクニュース」第 36 号発行

7月7日、骨髄バンクニュース第36号を発行しました。今号は導入が予定されている非血縁者間末梢血幹細胞移植（P B S C T）の特集です。骨髄移植との違いや、これまでの経緯についての説明の他、血縁者間での P B S C T を経験された方のレポート等をお届けしています。また、白血病を題材にした映画「おにいちゃんのハナビ」に主演している高良健吾さんと谷村美月さんのインタビューと、今年の3月にドナー登録をされた福岡ソフトバンクホークス杉内俊哉投手のインタビューを掲載しています。

5 舞台「友情」&「IMAGINE 9.11」

友情

白血病の少女とクラスメート達との心の繋がりを描き、長年にわたって骨髄バンクを支援してきた舞台「友情」の夏の公演が行われます。

〔日程〕2010年8月27日（金）～9月1日（水）

〔会場〕銀座 博品館劇場 8月30日（月）は「町田市民ホール」での公演です

〔お問合せ〕劇団絵生（えき） TEL 03-5427-1822・1887

IMAGINE 9.11

同時多発テロによって飛行禁止となったアメリカから日本へ、移植を待つ患者さんのために緊急機で骨髄液を輸送した出来事を基にした舞台です。

〔日程〕2010年9月9日（木）～12日（日） 〔会場〕銀座 博品館劇場

〔お問合せ〕ヒューマンラブエイド事務局 TEL 03-5327-3353

E-Mail info@imagine911.com

6 元職員が財団を提訴した訴訟の和解成立について

平成 19 年 5 月に、諭旨解雇された元財団職員が地位保全と損害賠償を求めて財団を提訴した裁判について、7 月 5 日東京高等裁判所において、和解により円満に解決しました。元職員は 8 月から職場復帰します。

7 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
常任理事会	公開・一部非公開	7月21日(水) 17:30～ 廣瀬第1ビル2階会議室

コーディネーター関係者のコーナー

以下は、調整医師、採取施設、移植施設およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

8 第1回「PBSC Tに関する研修会」の開催について

7月9日、10日にコーディネーションスタッフ等を対象とした、第1回「PBSC Tに関する研修会」が開催されました。今回の研修は、10月からのPBSC Tの実施に向けて、業務を担当するコーディネーションスタッフ、コーディネーターの他、各地区事務局の代表者も参加しました。骨髄提供と末梢血幹細胞(PBSC)提供の違いと「骨髄・PBSC提供の選択可能なコーディネート」の概要を理解することなどを目的として、宮村耕一先生(名古屋第一赤十字病院 血液内科)による医学的講義(PBSC採取に伴う副作用や合併症等)等が行われました。

今年度の各地区会議研修会においては、すべてのコーディネーターを対象にPBSC Tに関する研修を実施します。

9 骨髄採取前のドナーに対する健康上の確認について(コーディネーターの方へ)

骨髄採取前日(入院時)にドナーのCPK検査データに異常値が認められ、骨髄採取が中止された事例が発生しました。いずれの事例も原因は特定されていませんが、過度の筋肉運動によりCPK値が上昇することがあります。日常行っていないような過度の筋肉運動をお控えいただくことについては、「ご説明書」「骨髄採取前をお願いしたいこと」にも記載されていますが、ドナーの受け止め方に差があるため、十分に徹底されていないのが現実です。コーディネーターからの説明の際には、運動によるCPK上昇により採取が実施できず、患者さんの生命に影響することがあることを強調のうえ、入院の2週間前から入院まで筋肉運動(トレーニング)は絶対に行わないようお伝えください。どうしても避けられない場合は、術前健診の際に医師に相談するようにしてください。

また、コーディネーターが骨髄採取の8～10日前に健康状態の変化や気になる点を確認する際にも、再度、筋肉運動(トレーニング)自粛についての念押しをお願いします。

事例 1：ドナーの方は骨髄採取の 10 日程前に自転車で長距離のツーリングを行いました。採取施設と財団での検討の結果、ツーリングの影響が考えられるものの、最終的には「CPK 検査データ上昇の原因は不明」とされ、骨髄採取は中止とされました。

事例 2：ドナーの方は骨髄採取の 7 日前から入院前日まで、毎日 30 回程度の腕立て伏せを行っていました。Day - 1 夕方、Day 0 の再検査でも CPK の検査データが上昇したため、骨髄採取は一旦延期。Day + 1 の再検査ではさらに上昇が確認され、Day + 3 には下降傾向が認められましたが、CPK の継続的高値から他の疾患の可能性も疑われるため、最終的に骨髄採取は中止とされました。 Day 0 = 採取予定日

10 「骨髄採取バッグの期限が切れていた事例」について（採取施設の先生方へ）

このたび、骨髄採取時に「骨髄採取バッグの期限が切れていた事例」が報告されました。現在までのところ、患者さんは移植骨髄注入に伴う有害事象は認められていないことが確認されています。

なお、採取施設より、本事例は採取用バッグの有効期限の確認を怠ったことが原因で、今後の対応として、採取用バッグの管理を血液内科医師から手術室クリーンサプライ管理に変更するようにした、との報告を受けています。詳細は別紙「骨髄採取バッグの期限が切れていた事例（安全情報）」をご参照ください。

11 「骨髄液に紫外線が照射された事例」について（移植施設の先生方へ）

この度、移植施設から「骨髄液に紫外線を照射した事例」が報告されました。患者さんへの影響は認められなかったものの、今後も注意深く経過観察していくとのことです。本事例の原因はマニュアル遵守の徹底がされていなかったため、今後の対応としてはパスボックス内の紫外線取り外しを決めたとの報告がありました。詳細は別紙「骨髄液に紫外線が照射された事例について（安全情報）」をご参照ください。

12 臨床研究として実施される移植、および、DLI 申請について

これまでに、研究を伴う申請が 2 例あり、いずれも医療委員会と常任理事会において審査を行い受け付けました。その後、医療委員会においてさらに具体的な手続きを検討し、一定条件を満たしている場合は申請を受け付けることとなりました。医師の皆様にはその条件等の詳細情報を添付しましたのでご参照ください。

13 「骨髄提供者となられる方へのご説明書」の増刷、および「補足事項」の改訂について

「骨髄提供者となられる方へのご説明書」の増刷・一部変更、および『補足事項』の改訂（内容の一部変更・データの更新）を行いました。

コーディネーターの皆さま、調整医師の先生方には「骨髄提供者となられる方へのご説明書」とその「変更一覧」、「補足事項」の改訂版を今回のマンスリー JMDP に同封してお届けします。

初期コーディネート担当からドナーの方への新しい「ご説明書」・「補足事項」の送付は 7 月 20 日頃の見込みです。なお「『骨髄バンク団体傷害保険』適用症例一覧」、「骨髄バンク団体傷害保険で後遺障害適用となった事例について」も改訂しましたので併せてご利用ください。（財団ホームページでもご覧いただけます）

コーディネート中のドナーの方への差し替えは必要ありません。

14 「調整医師および認定施設連絡責任医師会議」の開催について

本年9月24日～26日に横浜市パシフィコ横浜で開催される第72回日本血液学会学術集会に併せて、「調整医師および認定施設連絡責任医師会議」を開催します。当財団では非血縁者間末梢血幹細胞移植導入に向け、特別諮問委員会である P B S C T に関する委員会で様々な施策および方針を検討してきましたが、同会議では検討されてきた方針などについてご説明させていただきます。なお、詳細については次号にてご案内します。

1. 日 時 : 平成22年9月26日(日) 12:30～13:20
2. 会 場 : パシフィコ横浜 第72回日本血液学会学術集会 第一会場
3. 内 容 : 非血縁者間末梢血幹細胞移植導入について

15 広報アンケートについて

初期コーディネートを開始された方を対象に「骨髄バンク広報に関するアンケート」を実施します。7月26日送付分より適合通知にアンケート用紙を同封します。なお、本件に関するご質問は広報渉外部までお願いいたします。

16 連絡事項（調整医師の先生方へ）

未使用の確認検査採血管返却について（お願い）

確認検査中止、または採血せず終了になった場合、S R L の担当者が未使用の採血管を回収に伺っておりますが、一部に回収不可能な施設があります。下記の理由から、確実にご返却いただきたくご協力くださいますようお願いいたします。

<未使用の採血管を回収する理由>

採血管取り違い防止のため回収します。過去に複数回、中止になった確認検査の他のドナーの採血管を使用してしまった事例があります。

ドナー・患者の情報保護のため回収します。S R L からお届けする採血管には、患者・ドナー双方の I D が記載されています。